

デジタル化 虎の巻

実践事例に見る 成功するDX

清 観 堂

効率化で事業領域を拡大

生産性を向上 幅広いリフォーム 工事に対応

清観堂
代表取締役社長
太田 圭祐 氏



静岡県伊東市の清観堂は、内装リフォームをはじめとして、幅広いリフォーム工事に対応している。以前は工務店などからの内装工事依頼が事業の中心だったが、今では元請けとしてリフォーム工事を手掛けることが多くなっている。

同社の太田圭祐社長によると、「小さなリフォーム工事であっても、丁寧に対応するなかで、いつのまにかお客さまから直接工事を依頼されることが増えていった。また、内装工事以外にも依頼されるようになりました」と語る。

一般の消費者だけでなく、不動産業者経由の工事依頼も増えているそうだ。既存住宅の購入と共にリフォーム



内装リフォームをはじめ幅広いリフォーム工事に対応している清観堂。

工事を行うことも多く、そういう時に安心して顧客に紹介できるリフォーム業者の存在が重要になる。

とくに清観堂が事業を行う伊東周辺では、コロナ禍の影響で都心から移住してくる人が多く、既存住宅を購入しリフォームを行うケースが目立ってきているという。

清観堂ではマンション管理会社からの紹介も増えている。マンションの居住者からリフォームの相談を受けたマンション管理会社が同社を紹介するケースが多い。さらには共有施設の工事を行う機会も増加してきている。

工事内容の変化に伴い
現場管理の重要性が高まる

不動産業者やマンション管理会社からの紹介が多いことは、清観堂への地域での信頼感の表れであると言っている。

こうした紹介が増えるなかで工事分野の幅も広がり、内装工事だけでなく電気工事や給排水工事などを依頼されることも増えてきているというわけだ。同社では、他の協力業者とも連携を取りながら、内装工事以外への対応を図っている。

工事件数が増加するとともに、工事内容も大きく変わるなかで、現場管理の重要性も高まっていった。例えば、

施工前、施工中、完了後の状況を写真で撮影し、完了報告を提出するためには、協力事業者も含めて同じ手法で写真を保存することが求められる。

一般的なチャットアプリなどでも写真や工事の進捗状況などを共有することは可能だが、写真データを編集しようとする別のアプリを立ち上げ、その写真を報告書に貼り付けるという手間が生じる。

一人当たりの工事件数が増えるなかで、こうした手間を削減しながら現場管理を行う必要性が生じていたのだ。

そこで同社ではBRANUの「CAREECON for WORK 施工管理」を導入した。このツールは、中小企業の現場管理をもっと楽にするためのもの。案件管理や写真・ファイルの保存、画像編集、報告書作成、工程表の作成、掲示板などをひとつのアプリで完結できるという特徴を備えている。

そのため、複数のアプリやツールを使用することなく、撮影した写真を保存し、編集した後で報告書に貼り付けるといった作業をシームレスに行えるというわけだ。

引渡し後の顧客管理にも利用

導入して間もないこともあり、充分



当初は内装工事を中心に事業を展開してきたが、今では工事分野も広がり、効率性を高めることが求められていた。



「CAREECON for WORK 施工管理」の導入によって、社員の方々の業務負担を極端に増やすことなく、幅広いリフォーム工事に対応しやすくなったという。

いることを実感しているそう。

また、引渡し後の顧客管理にも役立つという。とくに旅館などの工事の場合、リピートでの工事依頼が多い。これまでは太田社長の手帳に書き込んだメモを頼りに以前の工事状況などを確認することもあったそうだが、今後は「CAREECON for WORK 施工管理」に保管された情報を確認すればよい。

清観堂では、社員1名で多い時には6、7件の現場を担当することもある。「小さな工事でも丁寧に対応する」という方針を掲げているだけに、現場数は自ずと多くなるだろう。その姿勢が同社の信頼獲得につながっているだけに、今後も方針転換を図るつもりはないという。だからこそ現場管理などの業務を効率化することが強く求められおり、今後も「CAREECON for WORK 施工管理」の機能を最大限に活用していきたい考えだ。「BRANUさんは分からないことを聞く」と、すぐにレスポンスをしてくれま

その点が非常に役立っています。リフォーム工事の場合、その場ですぐに答えが欲しい時も多いですから。BRANUさんに分からないことを教えてもらいながら、機能を最大限に利用していきたいです」（太田社長）。